

1. 1月全国行事
 - 1) 年末年始無災害運動 12月1日～1月15日
2. 安全・衛生・防災の心得 : 年末(12月)非常作業に要注意
3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)
4. 他社 事故・災害事例から : モンキーレンチが外れて転倒・重症
5. ヒヤリハット事例 : 台車を移動しようとしている時に、つまずいてふらついた

2. 安全・衛生・防災の心得 : 年末(12月)非常作業に要注意

～トラブルでは「止める・呼ぶ・待つ」～

・労働災害の多くは「非常作業」の中で発生しています。「非常作業」とは、通常作業のように、普段から決められている繰り返し作業ではなく、設備や機械の故障のようなトラブル処理や作業工程切り替えや移行、飛び込み作業や年末の片付け、大掃除などのように、普段はやらない作業を指します。

非常作業では事故や災害が多いのは次のような事情からです。

- ①異常な措置および処置に時間的余裕がない。
- ②瞬時の判断を必要とすることが多い。
- ③減多にない状況のため関係者の経験が浅い。
- ④作業手順書等、適切なマニュアルがない。
- ⑤危険・有害ガス等に対する対策が不完全。
- ⑥休日や夜間等、管理者や技術者が不在。
- ⑦足場などの作業設備が不適切・不安全、など。

・したがって、これらの「非常作業」での事故や災害を防止するためには、まず、リスクアセスメントやKY(危険予知)で、危険・有害要因を洗い出し、また、部門間・関係者間の連絡・調整を緊密に行い、トラブルが起きたら「止める・呼ぶ・待つ」の原則を守ります。

・緊急作業等の非常作業を問題なく、正確に行うためには、普段からこれらの非常作業を想定した作業手順やマニュアルを作成し、また、異常・緊急時等に使用する用具や工具等も整備しておくことが大切です。

非常作業の安全心得

- ①作業計画を作成し、関係者間で調整を行い、無理のない工程や作業方法を決める。
- ②作業前のミーティングをしっかりと行い、メンバーの意思の疎通を図る。
- ③作業間の連絡・合図・確認等の方法は統一して確認し、徹底を図る。
- ④作業手順や安全ルールは全員で守り、危険を予測して安全作業・対策を実施する。
- ⑤作業手順書の作成が困難な場合は、管理・監督者等が手順を作成し指示する。
- ⑥労働安全衛生法等で決められた基準や規定は必ず守る。
- ⑦4Sを各自の責任でしっかり行う。
- ⑧作業前・中・後において、作業関係者の所在や健康状態を確認する、など。

3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

●福山工場

・挟まれ防止機能付きシャッターを新設していた



●福山第二工場

・工場西側奥のアスファルト補修工事が完成していた



4. 他社 事故・災害事例から : モンキーレンチが外れて転倒・重症

～用具と方法が対象作業に不適～

(1)災害のあらまし

・消火栓パイプのフランジの水もれを直すため、踏み台の箱(高さ30cm)に乗ってモンキーレンチでボルト・ナットを締め付けていた際にレンチが外れて転倒、消火栓のコンクリート基礎の角で後頭部を強打し、検査を含めて1週間の休業災害になりました。

(2)災害の主な原因

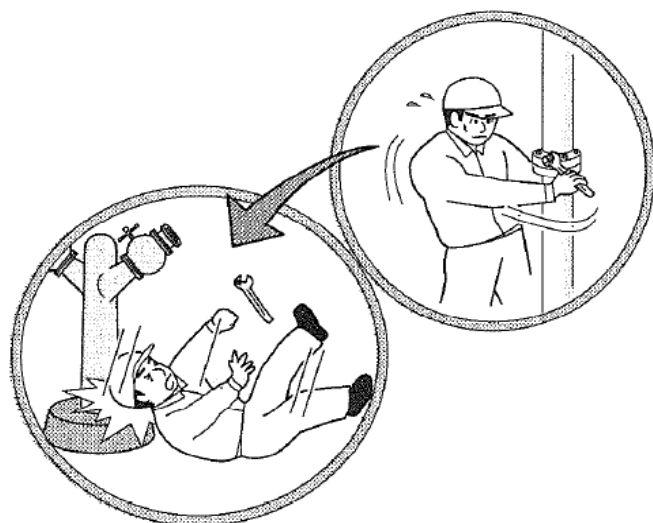
- ①フランジのナットに比べてモンキーレンチが小さく、レンチのアゴが伸びて外れたこと。
- ②ナットをゆるめるとき、レンチを下アゴに向かうように回したため、下アゴに無理な力が掛かり、変形してレンチが外れたこと。
- ③作業工具の正しい取り扱い方法等について教育されていなかったこと。
- ④足場に用いた箱が、足場として不安定だったこと、など。

(3)同種災害の防止対策 例

- ①モンキーレンチはボルト・ナットの大きさや径によく合ったものを使用する。
- ②ボルト・ナットが固結等で固い場合は、スパナやメガネレンチを使用する。
- ③レンチ等を取り扱うときは、外れたりすることを想定して、力のかけ方、外れた場合の安全性を考えて取り扱う。
- ④適正な工具の機能を知り、きちんと整備しておく。
- ⑤工事・修理等の作業を行う際は、先ず足場・足元の安全確保を実施する、など。

(4)環境安全部から

作業工具は正しいものを使用し、正しい取り扱いにて作業すること。また、足場についてもしっかりと安定したものをを用いること。



5. ヒヤリハット事例

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	作業中
どこで	アルミの解体の場所で
何をしている時に	台車を移動しようとしている時に、
どうなった	つまずいてふらついた。

以上